

介護福祉士養成のカリキュラム・ シラバスの検討について

I 基本的考え方

1 取り組み方

- ① 現行の科目・カリキュラム・シラバスにとらわれず、今日的視点で抜本的に見直す。
- ② 介護の現場で実際に行われている業務を踏まえ、実践的なカリキュラムとする。
- ③ 制度改正（改正介護保険法、障害者自立支援法）や、認知症及び中・重度者への対応等の介護ニーズの変化に即応したものとする。
- ④ チームによる多職種協働ができる介護福祉士を養成する。
- ⑤ 養成は基本的な内容とし、資格取得後の発展（現任研修等）を視野に入れたものとする。

2 人材養成における12の目標

1 「尊厳を支えるケア」の実践

2 現場重視、実践的

3 これからのニーズ、政策に対応

4 施設・在宅を通じ、汎用性

5 心理的・社会的支援の重視

6 介護予防からリハビリテーション、
看取りまで

7 多職種協働、チームケア

8 個人単位での対応能力

9 「個別ケア」の実践能力

10 説明能力、記録記述力

11 関連領域の理解

12 高い倫理性

Ⅱ 検討の方向

- 方針：
- ・ 介護ニーズの変化に即応したものとする。
 - ・ 実践に即応できる内容とする。
 - ・ 講義・演習・実習を一貫して学習できるようにする。

○基礎

- ・ 倫理、尊厳の保持、記録記述力、IT活用の内容を盛り込む。
- ・ コミュニケーション技術等を習得できる内容とする。
- ・ 制度については、介護保険制度、障害者自立支援法の内容を中心とする。

○からだところのしくみ

- ・ チームの一員として他職種と協働できるようにするため、からだところのしくみに関する知識を強化する。
- ・ 認知症の理解と対応について強化する。
- ・ 障害、高齢等年齢にとらわれず、自立支援の視点を強化する。

○介護

1) 基本的理解

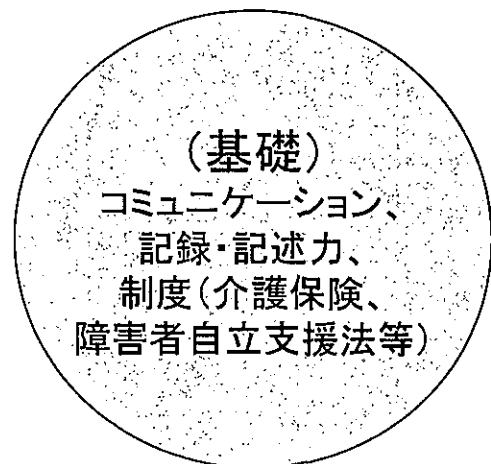
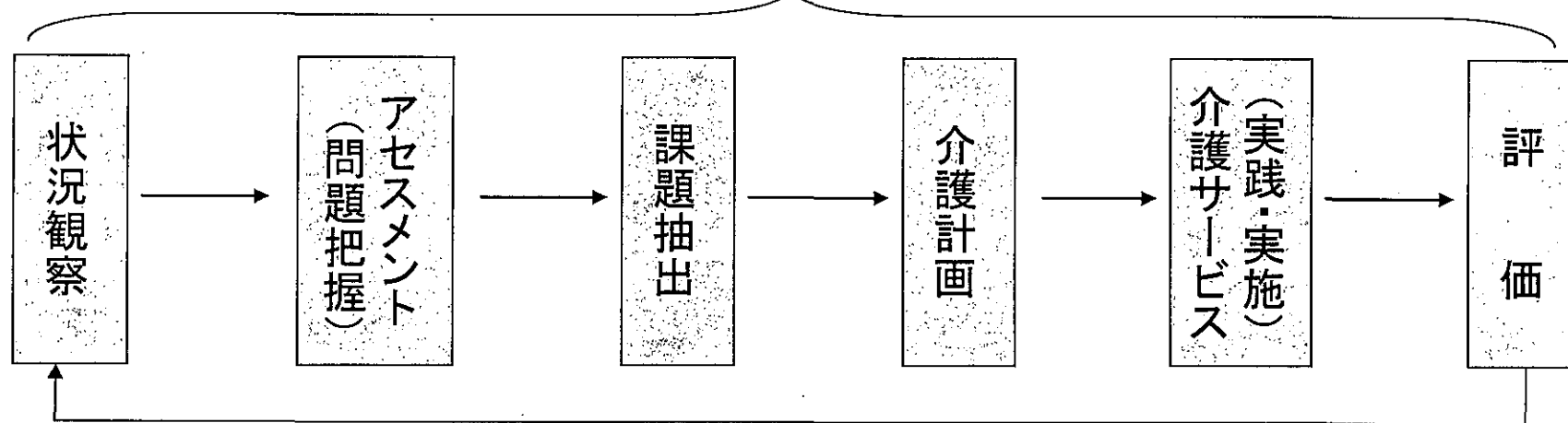
- 施設、居宅における介護に汎用できる基本的内容とする。
- 高齢者(認知症を含む)、障害児・者等に共通する基本的介護技術を習得する。
- 介護予防からリハビリテーション、看取りまでを一貫して理解できるようにする。

2) 介護技術

- 自立支援の視点に立った介護実践について理解する。
- 利用者及び家族に対する心理的な支援について理解できるようにする。
- 介護の実践におけるコミュニケーション、説明、記録記述ができるようにする。
- 小規模な介護拠点において、個人単位での基本的な対応ができるようにする。
- 衣・食・住生活・家庭経営について基本的な対応ができるようにする。
- 他職種との協働の中で、介護過程の展開が理解できるようにする。

(参考) 検討のイメージ

介護過程



チームケア

尊厳を支えるケア

倫理・人権意識

Ⅲ 検討の進め方

- 各分野の専門家及び実践者からなる作業チームを設ける。
- 検討は、本「介護福祉士のあり方及びその養成プロセスの見直し等に関する検討会」の議論を踏まえ行う。